

静岡、熊本に長射程弾配備

敵基地攻撃可能に

「専守防衛」転換

防衛省は31日、陸上自衛隊の富士駐屯地（小山町）と健軍駐屯地（熊本市）に、反撃能力（敵基地攻撃能力）を持つ国産長射程ミサイルを配備した。相手が攻撃に着手したと判断した段階で、敵国をたたく能力

の保有により「専守防衛」を掲げてきた日本の防衛政策は大きな転換点を迎える。―関連②面

ミサイルの名称は富士の島しよ防衛用が「25式高速滑空弾」、健軍の地上発射型が「25式地对艦誘導弾」

敵基地攻撃能力 自国の防衛のため、ミサイルを発射しようとしているなど敵の拠点となっている基地をたたく軍事作戦。歴代政府は憲法上、禁じられてはいないとする一方、自衛隊の装備がこうした攻撃を想定しておらず、日米安全保障条約に基づき、自衛隊と米軍は「盾と矛」の関係で、米軍に打撃力を依存するとして採用してこなかった。2022年、岸田文雄政権で策定した安全保障関連3文書で、「反撃能力」の名称で保有が決まった。政府は、国際法違反の先制攻撃とは異なるとする。どの時点で攻撃に着手したと判断するかは難しく、専守防衛の範囲を超えるとの批判がある。

に決定した。射程はいずれも千キロ以上とみられる。両駐屯地を皮切りに全国に配備される見通しだ。

軍拡を進める中国や北朝鮮への抑止強化を念頭に置いたミサイルは、運用を誤れば国際法の禁じる先制攻撃になる恐れがある。配備先が敵国の攻撃の標的になるリスクもあり、地元からは不安の声が上がる。

富士駐屯地の地元では59年前、ミサイルを駐屯地内に持ち込まないことで、政府と地元地権者らが合意した。陸自が1967年に、駐屯地に隣接する東富士演習場でロケット弾の試射を

陸自健軍駐屯地に展示された長射程ミサイルの発射機などの装備品。3月17日、熊本市で



行った際、当時の防衛施設庁が地元の要望を受け、静岡県や地権者らと「東富士演習場またはその周辺をミサイル基地化しない」ということを確認した。

このため、住民の間には今回の配備が「約束違反」だとの不満がある。小泉進

配備時期	配備先	装備品
今回	① 健軍駐屯地 (熊本市)	25式地对艦誘導弾
	② 富士駐屯地 (静岡県小山町)	島しよ防衛用高速滑空弾
26年度	③ 上富良野駐屯地 (北海道上富良野町)	島しよ防衛用高速滑空弾
	④ えびの駐屯地 (宮崎県えびの市)	
27年度	⑤ 百里基地 (茨城県小美玉市)	12式向上型 (空発型)
	⑥ 護衛艦「てるづき」 (母港は横須賀基地=神奈川県横須賀市)	12式向上型 (艦発型)
	⑦ 富士駐屯地	12式向上型 (地発型)

全国に配備される国産長射程ミサイル



次郎防衛相は19日の記者会見で、富士に配備する高速滑空弾は「移動式の装備品」だと説明し、任務の際は駐屯地から必要な場所に移動して運用するため、67年の合意には「反しない」と主張した。

大阪成蹊大の佐道明広教授（安全保障政策）は「長射程ミサイルが配備されれば、従来にまして攻撃対象になる」と指摘する。

また今回の配備を巡っては富士、熊本ともに住民説明会は開かれていない。佐道氏は住民の疑問に答えようとしない政府の姿勢に対し「国民の支持や支えがない安全保障体制だということを証明しているようにしか見えない」と批判した。